



# 二次救急医療を守るために!

## 秩父地域の救急医療体制

初期救急と二次救急の2つの救急医療体制があります。

- 初期救急：頭痛、腹痛、風邪、インフルエンザなどの軽症の場合
- 二次救急：入院が必要な場合

秩父地域の二次救急は、輪番病院（秩父市立病院、秩父病院、皆野病院）が交代で実施しています。3病院とも医師や看護師などのスタッフが不足している中、最小限の人数で秩父地域の救急医療を維持しています。

## 秩父地域の二次救急を守るため、初期救急を利用しましょう!

体の不調を感じた時は、できるかぎり平日の昼間に、かかりつけ医や近くの医療機関を受診してください。日曜、祝日については、軽い症状の場合、初期救急（休日診療所や在宅当番医療機関）を受診してください。大きなけがや脳梗塞のような重い症状の場合は、すぐに救急車を呼んでください。

## 救急医療についてご理解・ご協力をお願いします!

二次救急に軽症の患者さんが大勢受診すると、重症の患者さんが速やかに治療を受けられなかったり、少人数で勤務している医師や看護師が過労で退職してしまうなどのことが全国的な問題となっています。

医療は医師や看護師だけではできません。皆様のご協力が必要です。秩父地域の救急医療体制についてご理解いただき、皆さんが安心して医療を受けられるように、ご協力をお願いします。

- 夜間や休日の急病で判断に迷った時は、**埼玉県救急電話相談 ☎ # 7 1 1 9**番を利用しましょう。

詳しくは、P30をご覧ください。

問地域医療対策課 ☎ 2 2 - 2 2 7 9

### 救急医療

※秩父地域に三次救急はないので、秩父郡市外の三次救急病院に搬送となります。

<b>三次救急</b>	緊急の治療・入院 (救急車で搬送、 場合によってはドクターヘリで搬送)
<b>二次救急</b>	入院が必要 (救急車で搬送、自家用車で受診)
<b>初期救急</b>	頭痛、腹痛、風邪、 インフルエンザなど (自家用車や徒歩などで受診)

## 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、大都市圏に住んでいた人が地方都市に移住し、地域の活性化を図るとともに、その地での自立定住を目指す取り組みです。

### 令和元年度の活動を振り返って

林業担当が2人体制になり、本格的な活動がスタートした年でした。ともに林業未経験でしたが、山の測量、下草刈り、枝打ち、木の伐採、作業道の作設、といった現場の作業を、地域の方々にもご協力をいただきながら一通り事故もなく遂行できました。ありがとうございました。

全体を通して感じているのは、「林業は体だけではなく非常に頭を使う仕事だ」、ということです。自分がどう動いたら、木がどう動くのか。その結果何が起きるか。ぼーっと作業していて、一つしくじると、あとで何倍もの労力を要することにもなります。同じ木はひとつもなく、状況も毎回違うので、常に考えさせられ、油断ができません。そこに面白さを感じています。

令和2年度からは新たにもう1人加わり、3人体制となります。これからも林業に関わるいろいろなことに挑戦していきたいと思っています。

問森づくり課  
☎ 2 2 - 2 3 6 9  
地域おこし協力隊  
大熊浩史・長尾貴道



活動を紹介しています!  
フェイスブック「森の活人」



### 主な活動実績について

- 市有林での間伐作業  
2つの市有林（面積：0.83ha）で、合計140本超の木の間伐しました。また、およそ100mの作業道を作設しました。引き続き、材の搬出まで行い、収支計算する予定です。

- 「秩父森づくりの会」運営  
丸太切りや間伐などの森づくりに関わる活動で、延べ人数で79人の参加がありました。幸手市や所沢市など、秩父以外にも作業に参加いただいております。会員の方の山への熱い想いを感じます。

- 木工品の製作、販売  
市有林の間伐材を使って、ログトーチ（スウェーデン式のたき火の道具です）やペン立て、スマホスタンドといった木工品を自作し、絹市で販売しました。



- 研修への参加、資格取得  
今後もさまざまな木工品の製作に挑戦していきたいです。

- 研修への参加、資格取得  
埼玉県林業技術者研修を通してチェーンソーや刈り払い機の特別教育、また林野庁主催の車両系建設機械の技能講習など林業に必要な内容の講習を受講して、勉強しています。



安全を第一に、日々作業に当たりたいと思います。よろしくをお願いします!